



～次世代の医療のために～

以下の研究は、皆様よりNCNPバイオバンクに提供いただいた臨床試料（検体おもに血液・髄液等）と臨床情報の利用を倫理委員会で審査し、活用していただくことが認められた研究です。

この研究について知りたいことや、気になる点がありましたら、遠慮なく下記のバイオバンク窓口にご相談ください。ただし、個人情報の保護、知的財産権の保護により、ご対応・ご回答できない場合がありますので、予めご了承ください。

- ・本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。
- ・研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

**【対象となる方】**

2012/12/7～2018/9/30にご同意いただいた方

**【研究課題名】** 脳脊髄液を用いた気分障害のバイオマーカー研究

**【研究責任者】** 出口 裕彦（大阪市立大学）

**【本研究の目的及び意義】**

血漿を用いた気分障害のバイオマーカー研究において、nervonic acid濃度により双極性障害とうつ病を区別できる可能性が示唆された。nervonic acidは主に脳白質のスフィンゴミエリンに含まれる一価不飽和の $\omega$ -9脂肪酸である。血漿と比較して、より脳白質の情報を反映すると考えられる脳脊髄液を用いてうつ病、双極性障害患者間でnervonic acid濃度に差があるか、診断補助として用いられる感度、特異度を有するかを検証する。

**【本研究に提供している試料・情報】**

髄液

**【問い合わせ窓口】**

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターバイオバンク

所属 メディカルゲノムセンターバイオリソース部

電話番号 042-346-3520

e-mail : biobank※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)